

人とかかわる力＝「社会性」ってなあに？

【子どもの育ちの4つの側面】

1. 運動 体全体を動かす、手指など細かい部分を動かす
2. 認知 目で見て理解する、考える、覚える、目の前にない事をイメージする
3. 言語 聴いて理解する、話す、ことばで考える、覚える
4. 社会性 人に興味を持つ、相手の気持ちを想像する、応答する、共感する

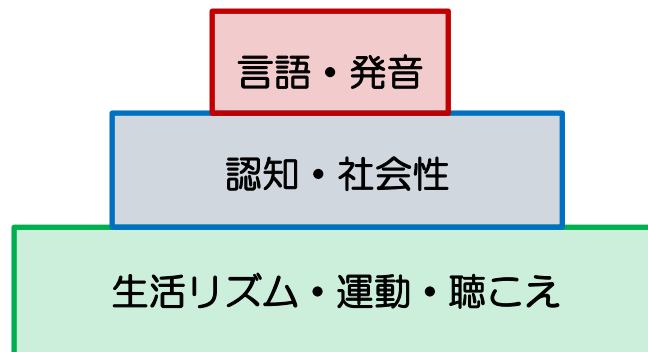
例えば…

	認知・運動	社会性	言語
ままごと	- 調理の流れが分かる - 皿に盛ることができる - 果物と野菜等を分類できる	- 相手が何を食べたいか興味を持つ - 食べている人の表情を見る - 相手に「おいしい」と言われて喜ぶ	「何食べる？」と尋ねる - 言われた料理名を理解する
お手伝い	- 洗濯物を種類別に分けられる - たたむことができる - 料理の前に手を洗うことが分かる	- 役に立ちたい気持ちがある - 褒められるとうれしい - お兄さん・お姉さんになった気持ちを持つ	- お母さんから言われた様々な指示を理解する - 分からない時「これはどうするの？」と尋ねられる
ゲーム： ババ抜き	- 同じ数字を見つけられる - カードを引いたり揃えたりできる	- 順番や勝ち負けが分かる - ルールを理解し受け入れる - 自分の持ち札を相手に見られないようにする - 負けても次は頑張ろうと思える	「〇〇の番」「勝った・嬉しい」「負けた」「悔しい」などのゲームに関する言葉を理解する



【ことばの基盤】

難聴のあるお子さんは聴こえが悪いために言葉が遅れます。でも、聴こえが確保されても、「認知」や「社会性」につまづきのあるお子さんは言葉が遅れる傾向にあります。言葉を育てるためにはその基盤になる部分をしっかりと積み上げていくことが大切です。



【社会性を伸ばすには？】

1. 人とかかわりたい気持ちを伸ばすこと

誰でも自分に嫌なことをする人とはかかわりたくないですよね？

「**この人とかかわると心地よい**」と思ってもらうことが第一歩です。

- ★子供からのアプローチにはすぐに反応してあげる
- ★子供の求めていることに応じてあげる
- ★何でもない事でも認め「えらいね、すごいね」「ママ助かったよ」と褒めてあげる

※物を使って釣ると要求は増えますが、人と関わる気持ちは育ちにくいので要注意です。
物よりも“その人自身がしてくれることが嬉しい”と思えるようにしていきましょう。
体を使った遊びや共同作業がおすすめです。オーバーリアクションを好む子もいます。

2. いけない事をしたらどう教える？

社会性の弱いお子さんは相手の気持ちを想像することが苦手なので、したいことを止められると「この人は自分の邪魔をする人だ」と勘違いしてしまいます。大人も子供の行動を見て「わがままだ」とか「機嫌が悪いのかな」などと解釈しがちです。双方の認識がずれているのです。

- ★言い聞かせができる状況と気持ちをつくる
 - 時間に余裕はありますか？じっくり話せる環境ですか？
 - 感情的に叱っていませんか？
- ★子供の気持ちをまずは受け止め、「**〇〇ちゃんの事、分かってるよ**」と知らせる

→「こうしたいんだよね？」と子供が分かる方法で伝える

★どうしたら子供のしたい事ができるか、を分かりやすく伝える

→「あとで」や「～しちゃダメ！」だと分かりにくい場合があります。

「○したら△しようね（1 番は○、2 番は△）」など**具体的、肯定的**に伝えましょう。

言葉で通じない場合は実物、写真、絵、ジェスチャーなども使いましょう。

※気持ちが崩れている時にいきなりは成功しません。日ごろから「手を洗ったらおやつを食べようね」などと「○したら△」を練習しておくことが大切です。

★危険なことについて

→まず、危険なことが起らないような環境を整えておきます。

危険なことはする前に止め、真剣な表情で言い聞かせます。優しい顔で言っても伝わりません。「**これをするとママ（パパ）は怒るらしい**」と感情に訴えます。

★マナーについて・・・経験の積み重ねが必要です

①事前にお約束をする②言い聞かせても守れなかったらしている事を中断させる

③約束を守れたらしていたことに戻してあげる

例．電車で騒いだ→言い聞かせても応じない→次の駅で降りる

→約束を思い出させる→電車に乗る

マナー違反をすると**“自分にメリットがない”**ということを身を持って理解させます。大人は毅然とした態度で臨みましょう。言い聞かせを聞いて納得したり、行動が改善したらすぐに**「これが良い事なんだよ（お兄さん・お姉さん・○子さんらしい）」**などと褒めます。

少し大きいお子さんには「どうしてそうしなければいけないか」を説明してあげることも大切です。「車では歌ってもいいのに、電車やバスの中ではなぜダメなのか？」など状況を理解することが難しいお子さんには**“周りの人が気持ちよくいられるために自分が我慢する”**ということを、じっくり時間をかけて理解できるようサポートしましょう。絵本や教育系の DVD など使えますが、知識では分かっているでも自分のことになるとダメというお子さんもいます。

「言うは易し、行うは難し」

毎日の生活を回していくだけでも大変ですよね。叱りがちになったり、エネルギー切れになることもあると思います。最初は 10 回中 9 回怒ってしまっても、1 回はじっくり言い聞かせようという気持ちでお子さんと向き合ってみましょう。大人も根負けしそうになりますが、ご家族の協力も求め、お子さんの力を信じて取り組みましょう！